

もり
大森勝夫の音
おと
信たより

第2定例会の報告 平成22年 6月議会



山形県 月山より湯殿山への登山道からのながめ

みなさんこんにちは 大森勝夫です。
七月に出羽三山に登る機会に恵まれました。江戸時代より信仰の山として名を馳せ、多くの参拝登山者で出羽三山は賑わったそうです。羽黒山神社へ参拝のあと、宿坊に泊まり月山登頂に備えます。宿坊のあるじが神主で、ご祈祷と登山の案内をしてくれるので安全に登ることが出来ます。標高約二千米の月山山頂に神主が在駐しているのには驚きました。

湯殿山へ下山したのですが、湯殿山のご神体はお湯の湧き出る奇岩なので、足湯で疲れを癒せるのです。とてもよくできた自然体験システムだと感じました。出羽三山の参拝登山が、一つの地域経済のモデルとして完成されているのです。

地理的魅力・人間的魅力・食や湯などの実感的魅力が上手に絡み合うことで、その土地独特の輝きを放ち、人を惹き付けるのだと感じた山行でした。それらの手法を応用し、大子町の魅力を作り上げていくべきだと痛感した、ひとときの楽しい旅でした。

清流高校に大学の推薦入学枠を

無償貸与の理科大に地元高校から推薦入学を

清流高校に大学への推薦入学枠があれば、生徒にやる気を起こさせるきっかけになるでしょう。また、高校進学を考慮する際、大学の推薦入学枠の存在は、志望校の選択理由として重要視されるでしょう。志願者の減少ストップに有効な手段になるのではないのでしょうか。

県内でも少子化が進んでいます。志願者の少ない県立高校は、徐々に閉校されていくことになるでしょう。この大子町にある清流高校が、そのような道を辿ることだけは避けなくてはなりません。町

内の出生者数の減少傾向が続くとすれば、今から、清流高校の魅力を高める働きかけをしていく必要があるはずです。

高校の魅力、志願者が増える条件は何があるでしょう。スポーツが強く知名度が高いとか、大学への進学率が高い、などが一般的でしょう。本人の努力にもよりますが、大学への進学が比較的容易であれば、その高校へ入りたいという決定的な理由になります。

大学への推薦入学枠が幾つかあれば、中学生の目からも、大学進学という夢の実現が想像できるはずです。大学への推薦枠がある清流高校に入りたいと憧れを抱くでしょう。そうした子供たちが入学することで、誇りを持った生徒が増え、志気が高まり、さらに魅力ある学校へ進化していくことが可能になります。

推薦入学枠を設けるためには、大学と高校の信頼関係がきわめて重要になってきます。簡単に推薦入学枠を設けられるほど、現実には甘くはないでしょうが、推薦枠を設ける活動は必要なことです。

大子町は複数の大学と協力関係をもっています。そうした大学から交渉を進めるのが順当でしょう。大子町と各大学の関係のなかで、東京理科大は研修施設と敷地を、町が無償で貸与しています。そ

の協力姿勢を活かして、東京理科大への推薦入学枠を、大子清流高校に設置できないものでしょうか。

答弁によれば、大子町では、昨年末、理科大側へ推薦入学枠を設けて欲しいとの要望を伝え、清流高校にも理科大との交渉を進めるように要望を伝えたそうです。それにより、今年、清流高校の校長が理科大を訪問し、推薦入学枠の交渉を始めているとのこと。

この案件は、大学と高校との間で取り決められることなので、町政が関与する分野かどうか疑問を持たれる方もいるかもしれませんが。しかし、町内に清流高校があることは、町にとって大きな意味があります。高校生が見かけられない町になっただけなら、寂しい町になってしまいます。水郡線の利用者も減ってしまつてしょう。高校は町に必要なのです。

今後の大学と高校の交渉の成り行きを見守り、「町の高校存続のために」という積極的な姿勢で、町が後ろから応援して、推薦入学枠の実現を果たしてほしいものです。

商店街活性化に大子まつりを

試験的に商店街開催を検討してみてもどうか

今年の四月に、大子町文化福祉センター「まいん」がオープンしました。その駐車場を使い、恒例の常陸國よさこいソーラン祭りが盛況に開催されました。活気に溢れ人で賑わう通りはいいものです。

秋におこなう大子まつりも同様に、商店街での開催を試案できないでしょうか。まつりの実行委員会の皆さんの判断にお任せするべき案件ではありますが、まいんオープンの年というチャンスに、試験的な意味もふくめて、開催場所の変更も新鮮だと思つています。

市街地開催での問題は、来客の駐車場でしょう。広域公園ですら、駐車場に苦勞するのですから、商店街開催は、はじめから無理と思えるかもしれません。

そこで、まつりの会場は一カ所という発想は捨て、商店街内に会場を分散して設け、時間差でイベントを開催するのです。「歩く」をテーマにした健康まつりとし、各会場へ歩いて移動することも、まつりの趣旨とするのです。これで商店街を確実に人が歩くことになり、駐車場の遠方に分散していても、会場が分散しているので、最短会場が存在し、どこに駐車しても、まつりの会場を歩き回れば距離は同じといった意識を持ってもらえます。分散会場は、まいん、湯の里公園、愛宕町と金町あたりの計四カ所が、バランスよく歩く配置ではないでしょうか。経費のかかる

ステージはどこか一カ所のみで、他の会場は、会場設営費をなるべくかけずにできるイベント内容にするのです。各会場には模擬店テナントを設け、イベント実施時間でなくても楽しめるようにします。

個人的な考えを勝手に述べさせてもらいました。実際に苦勞している実行委員会の方には失礼かもしれませんが。

しかし、私の本心は、商店街の活性化にあるのです。町の中心部に人が溢れて欲しいのです。一時的ではあっても、イベントなどで人が集まれば、新しいヒントやアイデアが浮かぶかもしれません。まつりに来た客からの苦情が、気づかなかつた新発想を生み出すかもしれないのです。そうしたきっかけ作りができないものかという気持ちが原点なのです。商店街に「まいん」が出現した環境の変化を、いま最大限に活用しなければなりません。今後、同様な劇的な変化は当然想定できません。この機会を逃してはならないと思つています。

あとがき

議員活動のホームページを作りました。
<http://omori-katuo.com> です。「森の音」をネットから印刷できるようにしました。以前の「森の音」も読んでいただければ、議員活動の経過を理解していただけたと思います。是非ご覧になってみてください。

大子町議会議員 大森 勝夫

